



AT-TQ3600 リリースノート

この度は、AT-TQ3600をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.0.6

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **2.0.2** から **2.0.6** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 無線コントローラーでデバイスロケーション（無線機器の探索）を実行する際に AP プロファイルの「RF Scan Other Channels」が無効に設定されていると、デバイスロケーションの実行後に本製品の無線電波の送受信が行われなくなっていました。これを修正しました。
- 2.2 5GHz 帯の W53 (52, 56, 60, 64) や W56 (100, 104, 108, 112, 116, 120, 124, 128, 132, 136, 140) のチャンネルに設定された本製品が、無線コントローラーによるデバイスロケーション（無線機器の探索）の実行によってレーダーを検出すると、デバイスロケーション完了後に無線電波が停止することがありましたが、これを修正しました。
- 2.3 デバイスロケーションを 2 回実行し、その 2 回の実行中ともレーダーが検出されると、無線 2 (5GHz) のインターフェースが無線 1 (2.4GHz) のチャンネルで動作することがありましたが、これを修正しました。
- 2.4 無線コントローラーの WLAN > Advanced Configuration > WIDS Security 画面で次の設定を行うと、無線コントローラーの管理下にあるアクセスポイント (Managed AP) が次のように判断されることがありましたが、これを修正しました。
 - ・「Fake managed AP on an invalid channel」を「Enable」に設定すると、Managed AP が「Rogue」と判断されることがある
 - ・「Invalid SSID from a managed AP」を「Enable」に設定すると、Managed AP が「Unknown」と判断されることがある
- 2.5 有線ポートから本製品宛のパケットで負荷をかけながら再起動すると、起動後に本製品宛の通信ができなくなっていました。これを修正しました。
- 2.6 「無線」画面で「チャンネル選択」を「Auto」、「使用帯域幅」を「40MHz」に設定すると、本製品の起動直後から約 30 分の間は 20MHz 帯域幅で動作し、その後 40MHz 帯域幅に切り替わっていましたが、起動直後から「40MHz」で動作するように修正しました。


た。これにより、起動直後から 40MHz で動作させるために「チャンネル選択」を「固定設定」にする必要はなくなりました。

- 2.7 5GHz 帯の W53 や W56 のチャンネルで「使用帯域幅」を「40MHz」に設定して運用すると、本製品から無線電波が送信できなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 2.8 「無線」画面の「Auto チャンネル候補」でチャンネルの候補を制限するように設定すると（部分的に候補のチェックを外すと）、すべての候補を選択する設定（デフォルト）に戻そうとしても、候補が制限されたままの状態となっていました。これを修正しました。
- 2.9 本製品からビーコンが送信されているにも関わらず、本製品への無線接続が突然できなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 2.10 mDNSResponder 関連の不要なログが表示されることがありましたが、これを修正しました。
- 2.11 本製品に接続している無線クライアントの情報を SNMP により取得する際のパフォーマンスを改善しました。
- 2.12 他の同一機種種のアクセスポイントで作成した設定ファイルを本製品にリストアすると、起動時に送信される GARP の MAC アドレスが他のアクセスポイントのものとなり、Web アクセスができるようになるまでに時間がかかることがありましたが、これを修正しました。
- 2.13 ファームウェアのアップグレードの際、バージョン表記は更新されるが、アップグレードは正常に行われなかったことがありましたが、これを修正しました。
- 2.14 設定画面の無操作状態の継続でセッションタイムアウト（自動ログオフ）が発生した後に、設定画面にログオンして設定画面上のリンクをクリックすると、本製品が再起動することがありましたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項


ファームウェアバージョン **2.0.6** には、以下の制限事項があります。

3.1 無線コントローラー

 **参照** [AT-UWC リファレンスマニュアル]


無線コントローラー管理下の、Sentry モード（監視モード）に設定されている本製品が起動するとき、5GHz 帯（2-802.11a/n）で 2.4GHz 帯（1-802.11b/g/n）のチャンネル 1 のアクセスポイントや無線クライアントを検出してしまうことがあります（WLAN > Intrusion Detection > Rogue/RF Scan 画面や Detected Clients 画面に表示されます）。検出の結果は 24 時間後に削除されますが、ただちに削除したい場合は手動で削除してください。

3.2 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)


ダイナミック VLAN (WPA エンタープライズ) 環境で、無線クライアントの検疫を実行するように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。

3.3 WDS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「WDS」](#)

WDS において、2 台以上のアクセスポイントを中継した多段接続は未サポートとなります。無線ネットワークの中心となる 1 台のアクセスポイントに対し、同一機種を最大 4 台まで接続し、エリアを拡張することができます。

3.4 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

「送信 / 受信」画面の wlan0wds0 ~ 3 の「ステータス」が正しく表示されません。

4 リファレンスマニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル (613-001462 Rev.E) は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>